

2026年3月期第2四半期 決算説明資料

2025年11月6日

I. 2026年3月期 第2四半期実績

II. 2026年3月期 通期予想

第2四半期実績サマリー

I. 2026年3月期 第2四半期実績

- ◆ 売上高は、戦略事業(精密ばね事業・海外鋼材事業)が伸長したものの、国内鋼材事業における受託^(※)売上数量減や原材料価格下落に連動した売価の低下等により、前期並みとなる。
- ◆ 営業利益は、戦略事業の収益貢献があったものの、受託分を含む室蘭コンビナート全体の数量減や高炉トラブルによる操業度低下等により生産性が悪化し、減益。
- ◆ 経常利益・中間純利益は、営業外費用の縮小及び前期のドイツばね事業撤退に伴う特別損失の解消等により、増益。

※：日本製鉄株式会社殿から生産を委託されている売上
(億円)

	25/3期 2Q実績	26/3期 2Q実績	前年同期差
売上高	805	799	△6
営業利益	32	21	△11
経常利益	17	14	△3
親会社株主に 帰属する 中間純利益	0	7	7

売上高・営業利益の変化要因

I. 2026年3月期 第2四半期実績

売上高



営業利益



※日本製鉄株式会社殿と共同で運営する高炉溶銑コストのうち、原材料市況(為替変動分含む)を除いた影響で、室蘭コンビナート全体の操業度や高炉トラブル影響を含む

セグメント別業績実績

I. 2026年3月期 第2四半期実績

- ◆ 国内鋼材事業の損益が大幅に悪化。一方で、ばね事業は前年同期比増益となり、海外鋼材・素形材・機器装置事業についても堅調に推移。

(億円)

			25/3期 2Q実績	26/3期 2Q実績	前年同期差
特鋼	殊鋼材	売上高	411	377	△34
		営業利益	19	△1	△20
ばね		売上高	336	361	25
		営業利益	6	15	9
素形材		売上高	46	45	△1
		営業利益	3	3	0
機装	器置	売上高	47	54	7
		営業利益	3	3	0
その他		売上高	18	19	1
		営業利益	1	1	0
連結調整		売上高	△54	△57	△3
		営業利益	0	0	0
合計		売上高	805	799	△6
		営業利益	32	21	△11

セグメント別業績実績(特殊鋼鋼材・ばね)

I. 2026年3月期 第2四半期実績

特殊鋼鋼材事業

(億円)

	25/3期 2Q	26/3期 2Q	前年 同期差
売上高	411	377	△34
営業利益	19	△1	△20

国内鋼材販売量(半期)※自社分

25/3 2Q	167千t
26/3 2Q	166千t

◆ 売上高(減収)

- ・【国内】(減収)
受託数量減や原材料価格下落に連動した売価の低下
- ・【海外(インドネシア)】(増収)
二輪・乗用車向けの売上数量増

◆ 営業利益(損失)

- ・【国内】(損失)
受託分を含む室蘭コンビナート全体の数量減や9月に発生した高炉トラブルによる操業度低下で、生産性が悪化
- ・【海外(インドネシア)】(増益)
売上数量増並びにコスト改善

ばね事業

(億円)

	25/3期 2Q	26/3期 2Q	前年 同期差
売上高	336	361	25
営業利益	6	15	9

◆ 売上高(増収)

- ・精密ばね事業及び国内ばね事業の売上数量増
- ・ドイツばね事業撤退による売上減少

◆ 営業利益(増益)

- ・精密ばね事業をはじめとする売上数量増

セグメント別業績実績(素形材・機器装置)

I. 2026年3月期 第2四半期実績

素形材事業

(億円)

	25/3期 2Q	26/3期 2Q	前年 同期差
売上高	46	45	△1
営業利益	3	3	0

◆ 売上高(減収)

- ・特殊合金粉末の売上数量増
- ・精密鑄造品をはじめとする他製品が売上数量減

◆ 営業利益(増益)

- ・製造コストが上昇していた精密鑄造品及び合金原材料価格が上昇していた特殊合金粉末の売価転嫁が進捗
- ・生産コスト改善

機器装置事業

(億円)

	25/3期 2Q	26/3期 2Q	前年 同期差
売上高	47	54	7
営業利益	3	3	0

◆ 売上高(増収)

- ・防護装備品、鍛圧機械及び海外電力機器等の売上増

◆ 営業利益(減益)

- ・売上増も、第1四半期における生産性悪化により減益。なお足元ではその影響は解消。

営業外損益・特別損益影響

I. 2026年3月期 第2四半期実績

- ◆ 営業外損益は、為替差損の縮小及び借入金圧縮による支払利息減により、改善。
- ◆ 特別損益は、前期のドイツばね事業撤退に伴う特別損失の解消等により、改善。

為替レート				(億円)		
24/3末	151円	25/3末	150円	25/3期 2Q実績	26/3期 2Q実績	前年同期差
24/9末	143円	25/9末	149円			
営業利益				32	21	△11
営業外損益				△15	△7	8
為替差損益				△8	△2	6
支払利息				△8	△6	2
経常利益				17	14	△3
特別損益				△9	1	10
保険金収入				2	—	△2
投資有価証券売却益				—	1	1
事業整理損失 ※				△11	—	11
税金等調整前中間純利益				8	15	7
税金費用等				△6	△6	0
非支配株主に帰属する中間純利益				△1	△2	△1
親会社株主に帰属する中間純利益				0	7	7

I. 2026年3月期 第2四半期実績

II. 2026年3月期 通期予想

通期業績予想修正について

Ⅱ.2026年3月期 通期予想

- ◆ 主に国内鋼材事業における室蘭コンビナート全体の数量減並びに高炉トラブルの影響を踏まえ、通期の営業利益予想を下方修正。一方で、ばね事業は期初予想を上回る見込み(詳細P.10)。
- ◆ 特別損益は、資産の売却を計画するほか、期初に見込んでいた海外拠点構造改革の影響額を精査の上、金額を見直し。
- ◆ 配当は、方針(配当性向40%かつ今年度は下限値80円/株)に基づき、変更無し。

(億円)

	期初予想(5/14)			修正予想(11/6)			
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	通期予想差
売上高	780	810	1,590	799	791	1,590	0
営業利益	30	44	74	21	23	44	△30
経常利益	22	35	57	14	16	30	△27
親会社株主に 帰属する 当期純利益	13	17	30	7	18	25	△5

営業利益の修正要因について

Ⅱ.2026年3月期 通期予想

(特殊鋼鋼材事業)

(億円)

	期初予想(5/14)			修正予想(11/6)			
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	通期 予想差
営業利益	12	18	30	△1	△5	△6	△36
国内	5	9	15	△9	△15	△23	△38
海外	7	8	15	7	10	17	2

(単位:千t)

国内鋼材 販売量	169	173	342	166	156	322	△20
-------------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

※自社分のみ

- ◆ 室蘭コンビナート全体の売上数量が想定以上に低迷したことに加え、9月に発生した高炉トラブルにより、操業度が低下し生産性が悪化したことから、期初予想を大幅に下回り、損失計上を見込む
- ◆ 海外事業(JATIM社)は好調に推移しており、期初予想を上回る見込み

【下期予想値の前提】

- ◆ 高炉トラブル影響は3Qで解消する前提で、4Qでは3Q悪化した分の挽回生産を見込む
- ◆ ただし、復旧作業中のため、当社への影響は不確定な部分も多く、引き続き損益見込が上下に変動するリスクを孕む

(ばね事業)

(億円)

	期初予想(5/14)			修正予想(11/6)			
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	通期 予想差
営業利益	11	15	26	15	18	33	7

- ◆ 精密ばね事業及び国内ばね事業は引き続き堅調
- ◆ 米国関税影響が期初想定より軽微となる見込み(詳細P.11)

素形材事業及び機器装置事業については、概ね期初計画通りに推移。

米国関税影響について

Ⅱ.2026年3月期 通期予想

【営業利益への影響(期初想定)】

	セグメント	内容	影響インパクト
間接的 影響 (需要減)	特殊鋼鋼材事業	当社が材料・部品を納入するお客様の最終製品(自動車・建設機械等)が、 関税適用による価格上昇等に起因した販売減を想定。 ⇒それに伴って当社製品の需要も減少	約3億円
	ばね事業		
	素形材事業		
直接的 影響 (コスト アップ)	ばね事業	当社拠点間(カナダ⇄米国)における材料の輸出入に関税が適用。 ・ 米国への輸出だけでなく、カナダ側の報復関税も想定 ・ 一部還付措置適用を想定	約12億円

【営業利益への影響(26/3期2Q時点)】

	セグメント	内容	影響インパクト	
間接的 影響 (需要減)	特殊鋼鋼材事業	・ 当初想定していた関税発動に伴う需要減については、今のところ大きな影響は見られない。 ・ レアアース輸出規制による自動車メーカーの操業停止影響を受けたが、8月に解消し影響は軽微に留まる。	上期実績	下期予想
	ばね事業		約0.3億円	影響は軽微と見込む
	素形材事業			
直接的 影響 (コスト アップ)	ばね事業	・ カナダ政府の減免措置により、期初想定より軽微に留まる。 ・ 減免措置については12月までの適用を想定しており、4Qでは期初想定並みのコスト発生を見込む。	上期実績	下期予想
			約0.4億円	約3億円

通期業績予想サマリー

Ⅱ.2026年3月期 通期予想

- ◆ 売上高は、精密ばね事業の売上数量増があるも、国内鋼材事業における受託等の数量減や高炉トラブル影響による減収が見込まれるため、前年同期並みを想定。
- ◆ 営業利益は、数量減並びに高炉トラブル影響による操業度低下等により、減益を見込む。
- ◆ 当期純利益は前期に計上したドイツばね事業の特別損失が解消することに加え、資産売却益等を織り込み、増益を見込む。

為替想定レート
1\$ = 150円

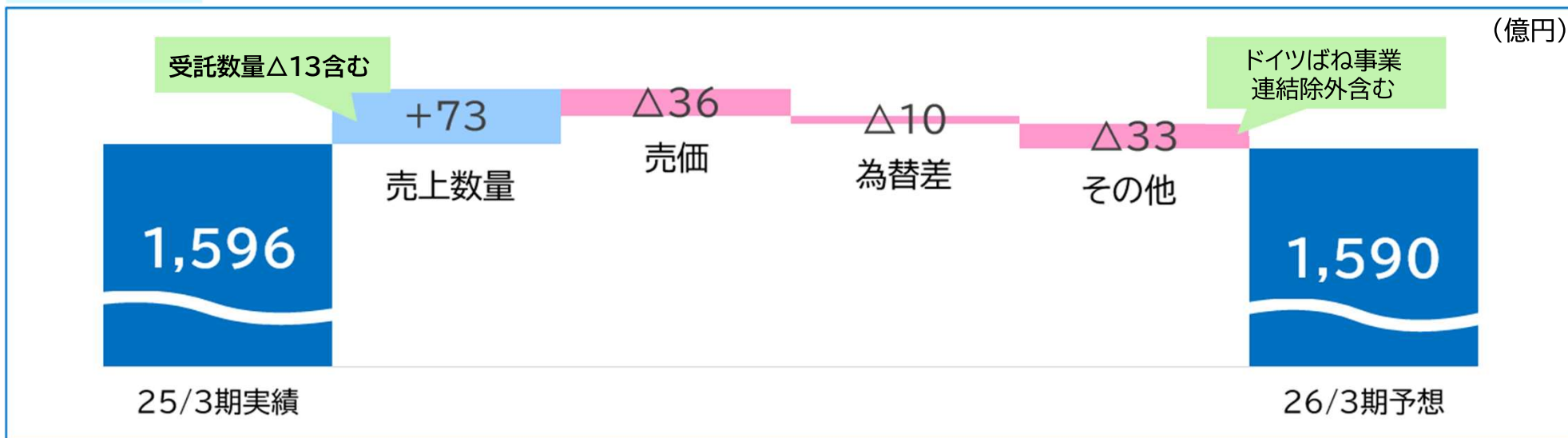
(億円)

	25/3期 実績	26/3期予想			前期差	(参考)	
		上期	下期	通期		期初予想 (5/14)	予想差
売 上 高	1,596	799	791	1,590	△6	1,590	0
営 業 利 益	66	21	23	44	△22	74	△30
経 常 利 益	49	14	16	30	△19	57	△27
親会社株主に 帰 属 す る 当 期 純 利 益	24	7	18	25	1	30	△5

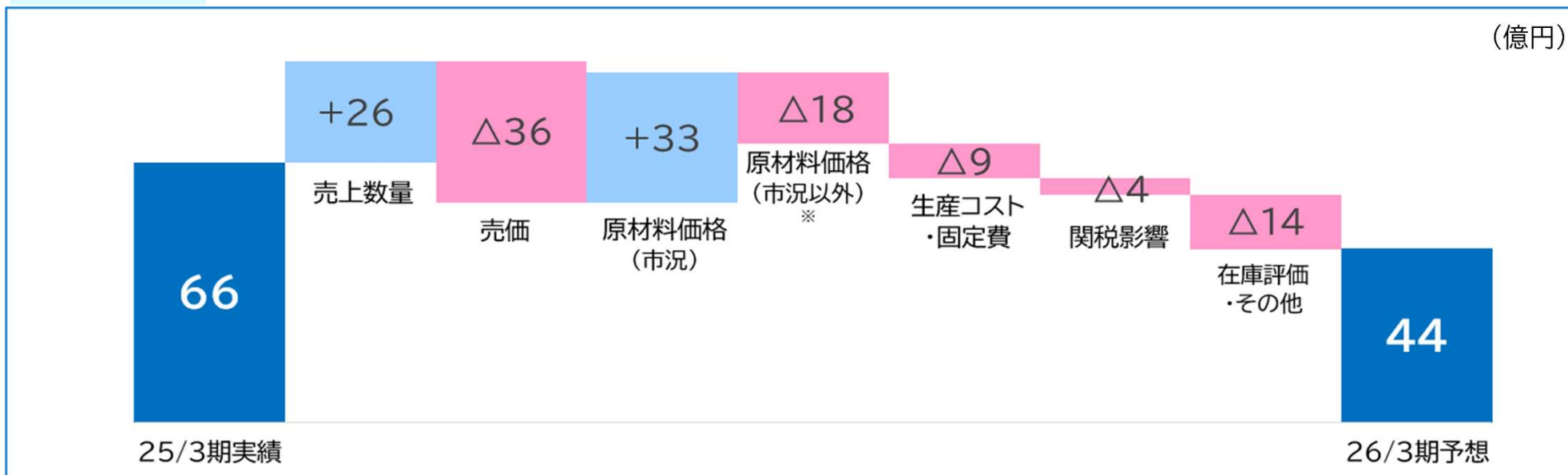
売上高・営業利益の変化要因

Ⅱ.2026年3月期 通期予想

売上高



営業利益



※:日本製鉄株式会社殿と共同で運営する高炉溶銑コストのうち、原材料市況(為替変動分含む)を除いた影響で、室蘭コンビナート全体の操業度や高炉トラブル影響を含む

セグメント別業績予想

Ⅱ.2026年3月期 通期予想

(億円)

		25/3期 実績	26/3期 予想			前期差	(参考)	
			上期	下期	通期		期初予想 (5/14)	予想差
特殊鋼材	売上高	815	377	353	730	△85	778	△48
	営業利益	33	△1	△5	△6	△39	30	△36
ばね	売上高	661	361	365	726	65	683	43
	営業利益	20	15	18	33	13	26	7
素形材	売上高	92	45	50	95	3	89	6
	営業利益	4	3	4	7	3	7	0
機装置	売上高	105	54	66	120	15	120	0
	営業利益	7	3	5	8	1	9	△1
その他	売上高	37	19	18	37	0	36	1
	営業利益	1	1	1	2	1	1	1
連結調整	売上高	△114	△57	△61	△118	△4	△116	△2
	営業利益	△0	0	0	0	0	△0	0
合計	売上高	1,596	799	791	1,590	△6	1,590	0
	営業利益	66	21	23	44	△22	74	△30

セグメント別業績予想(特殊鋼鋼材・ばね)

Ⅱ.2026年3月期 通期予想

特殊鋼鋼材事業

(億円)

	25/3期	26/3期	前期差
売上高	815	730	△85
営業利益	33	△6	△39

国内鋼材販売量(年間)※自社分

25/3	342千t
26/3	322千t

ばね事業

(億円)

	25/3期	26/3期	前期差
売上高	661	726	65
営業利益	20	33	13

◆ 売上高(減収)

- ・ 【国内】(減収)
受託等の数量減や高炉トラブル影響により減収
- ・ 【海外(インドネシア)】(増収)
二輪・乗用車向けの売上数量増

◆ 営業利益(損失)

- ・ 数量減並びに高炉トラブル影響による操業度低下

◆ 売上高(増収)

- ・ 精密ばね事業及び国内ばね事業の売上数量増

◆ 営業利益(増益)

- ・ 戦略事業である精密ばね事業の売上数量増
- ・ 国内含むアジア地区の売上数量増及び改善効果

セグメント別業績予想(素形材・機器装置)

Ⅱ.2026年3月期 通期予想

素形材事業

(億円)

	25/3期	26/3期	前期差
売上高	92	95	3
営業利益	4	7	3

◆ 売上高(前年同期並み)

- ・特殊合金粉末の売上数量増
- ・精密鑄造品をはじめとする他製品が売上数量減

◆ 営業利益(増益)

- ・製造コストが上昇していた精密鑄造品及び合金原材料価格が上昇していた特殊合金粉末の売価転嫁が進捗
- ・生産コスト改善

- ✓ 足元で再び上昇している合金原材料価格はサーチャージ制をとっているためタイムラグは発生するものの、売価へ転嫁される見込み

機器装置事業

(億円)

	25/3期	26/3期	前期差
売上高	105	120	15
営業利益	7	8	1

◆ 売上高(増収)

- ・防護装備品、鍛圧機械及び海外電力機器等の売上増
- ・25/3期の好調な受注を背景に、増収を見込む

◆ 営業利益(増益)

- ・売上増に加え、生産コスト改善等により収益確保

- ✓ 26/3期も、前期同様、好調な受注(117億円)を予定しており、次年度以降も安定的な成長を見込む

通期業績予想(営業外損益・特別損益影響)

Ⅱ.2026年3月期 通期予想

- ◆ 営業外費用は、借入金圧縮による支払利息減で改善。
- ◆ 特別損益は、前期に計上したドイツばね事業の撤退に伴う特別損失が解消したことに加え、資産の売却益を織り込み、改善。

(億円)

	25/3期 実績	26/3期予想			前期差	参考	
		上期	下期	通期		期初予想 (5/14)	予想差
営業利益	66	21	23	44	△22	74	△30
営業外損益	△17	△7	△7	△14	3	△17	3
為替差損益	△5	△2	△2	△4	1	△3	△1
支払利息	△15	△6	△7	△13	2	△15	2
経常利益	49	14	16	30	△19	57	△27
特別損益	△7	1	5	6	13	△5	11
土地・株式等売却益	2	1	5	6	4	—	6
海外構造改革費用	※△11	—	—	0	11	△5	5
保険金収入	2	—	—	—	△2	—	—
税金等調整前当期純利益	42	15	21	36	△6	52	△16
税金費用等	△14	△6	△1	△7	7	△18	11
非支配株主に帰属する当期純利益	△4	△2	△2	△4	1	△4	0
親会社株主に帰属する当期純利益	24	7	18	25	1	30	△5

【ご参考】主要指標・財務データ等の推移

Ⅱ.2026年3月期 通期予想

	24/3期 通期	25/3期 通期	26/3期 予想
総 資 産 (億円)	1,471	1,387	1,338
純 資 産 (億円)	478	499	507
自 己 資 本 比 率 (%)	28.0	30.8	32.5
R O E (%)	△2.3	5.6	5.8
営 業 C F (億円)	65	60	75
ネットD/Eレシオ (倍)	0.8	0.8	0.7
配 当 (円/株)	60.0	64.0	80.0
研 究 開 発 費 (億円)	18	17	17
設 備 投 資 (億円)	35	42	54
減 価 償 却 費 (億円)	41	41	42



＜将来見通しに関する注意事項＞

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。本資料における将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。